

講義名	公務員特別演習（行政職）	授業形態	
担当教員	河野 総史 / 河辺 有希生	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 4 時限
		単位数	2
		履修開始年次	3 年生
		ナンバリング・コード	PSC340

### 主題と概要

公務員特別演習は本授業を含めて、公務員を目指す学生を対象とする。1年後期（演習 ）から4年前期（演習 ）まで一貫したプログラムである。本授業はその内の公務員特別演習（行政職コース）であり、3年次からは公安職（消防・警察など）コースと分かれているので注意すること。  
「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。したがって、公務員受験のライバルは多く、この演習のみで合格できるほど公務員試験は甘くない。また知識をたくましくし、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められている。つまり公務員試験は、自ら考え、仲間とともに困難のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められている（まさに本学が掲げる「スアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材）。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていく。  
「司法官等」に就いてはすべての公務力の行使（国レベルでも地方レベルでも）が、法律の根拠と法律の定めた手続きに従ってのみ行われなければならない。そして、その公務力の行使を実際の現場で担当するが前提の公務員である以上、公務員になろうとする者は、みずから従うべき法律が何たるかを知らなければならないのである。そのため各種公務員試験においては、法律に関する基本的な知識を問う問題が頻出することになる。  
そこで当該授業においては、公務員試験において出題頻度の高い憲法、行政法、民法の三つの法律分野について、過去の試験問題などを参考にしつつ、基礎的知識の習得とその根本的知識の充実を目指す。

### 到達目標

- ・地域、社会課題に対して行政職の視点からの課題や解決策を考える姿勢を身につける。
- ・公務員として要求される法順守、コンプライアンス精神の涵養を図ることができるようになる。
- ・「考える学習型」授業を通じて、主体的に考え、文書作成、プレゼンテーション能力を養うことができる。
- ・公務員に必要な基礎能力（読む、書く、協議して語る）をつける。

### 提出課題

- 1 授業時に使用するワークシート
- 2 社会・地域課題のワークシート
- 3 教養課題のワークシート
- 4 社会・地域課題のテーマに関する論作文

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出されたワークシートの返却時に、疑問点や理解不足の点などをフィードバックする。

### 評価の基準

- ・講義でのテーマ課題やディスカッションでの発言：約20%
  - ・提出されたワークシート等の課題：約50%
  - ・評価レポート：約30%
- 合計100点により評価する。

### 履修にあたっての注意・助言他

公務員は、いつの時代でも人気の職業であり、したがって競争も激しく、安易な気持ちで合格できるものではないことを、肝に銘じて授業を受けてください。したがって次のような指針に従って受講するようにしてください。  
・本クラスは、真実に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。理由なく遅刻・欠席しないこと。  
・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。  
・学内の公務員試験対策講座（3年生から始まる有料講座）等の受講、もしくは外部専門学校を受講（ダブルスクール）を強くお勧めする。  
・「基礎技能9」以外の関連する正規授業も、順次、履修することが望ましい。  
法学入門、憲法入門、政治学、行政学、政治学、地域まちづくり概論、業界研究（官公庁）、民法から憲法、行政学、地方自治論、経済概論、マーケティング、マーケティング、マーケティングなど  
当該授業においては、憲法、行政法、民法の基本的な理解を提供するものにつき、後は自ら入手した自問題集をどれだけ繰り返し行ったか、はじめて受験に役立レベルに達するかどうかが決まります。授業時配付のレジュメ冊子や各自購入の問題集を使って、毎回授業を受けるために予習しておくのはもちろん、授業終了後は問題集を使って、繰り返し繰り返し授業内容の復習をするように心がけてください。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

.なし。

その他
-----

### 授業計画

- 1 ガイダンス、「仕事・職業とキャリアプラン」・基礎学力の確認(40分)  
<予習120分>公務員となり働くこと、その後のキャリアプランについて考える  
<復習120分>授業での内容をうけ、公務員として働くことの意義について自分の言葉でまとめる
- 2 論作文（論作文とは、裏方です）・教養課題  
<予習120分>過去の公務員試験の論作文のテーマについて調べる  
<復習120分>講義での教養演習の内容を解けるまで復習、論作文の目的、書き方についてまとめる
- 3 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 4 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 5 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 6 公務員試験（行政職・神戸市選挙管理委員会 予定）  
予習内容：公務員の行う様々な仕事の内容をネット等で調べておくこと（120分）  
復習内容：本日の実務者講義の内容を十分に検討すること（120分）
- 7 面接 「面接とは何か」・教養課題  
<予習120分>過去の公務員試験の面接の質問事項について調べる  
<復習120分>講義での教養演習の内容を解けるまで復習、面接についての内容を復習し、質問内容に自分の言葉で応えることができるようにまとめる
- 8 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 9 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 10 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 11 行政に関する法律 ・教養課題  
予習内容：前回の授業で示されたテーマについて調べておく、教養課題について示された範囲の復習を行い、理解を深めておく（120分）  
復習内容：学んだ法律の考え方・内容の復習（教養演習で学んだことを脳に落ちるまで復習すること）（120分）
- 12 公務員試験（行政職・神戸市選挙管理委員会 予定）  
予習内容：公務員の行う様々な仕事の内容をネット等で調べておくこと（120分）  
復習内容：本日の実務者講義の内容を十分に検討すること（120分）
- 13 評価課題・論作文  
<予習120分>これまでの学習内容を整理し、理解を深めておく  
<復習120分>今回できなかった、理解が足らなかった項目について再度復習しておく
- 14 面接 「自分の言葉で、話そう」・教養課題  
<予習120分>前に行った面接 を振り返り、過去の公務員試験の面接の質問事項について調べる  
<復習120分>講義での教養演習の内容を解けるまで復習、面接についての内容を復習し、質問内容に自分の言葉で応えることができるようにまとめる
- 15 まとめ、振り返り  
予習内容：これまでの当授業の内容を振り返って、理解が不十分、疑問点があれば整理のうえ授業中に質問する準備をしておくこと（120分）  
復習内容：全15回の授業を通じて配布された資料などを整理しながら、もう一度全授業で学んだことをノートなどにまとめておくこと（120分）  
講師の都合により、計画が変更になることもある。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマポリシーと関連する。  
【法政科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】  
「スアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材  
知識を意欲に転換することができる、論理的思考力を持った人材  
創造力 新しい視点と豊かな発想を持った人材  
自主・自立の精神を持った人材  
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材  
豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるため  
の基礎能力  
また、経済学部特別研究科目のカリキュラムポリシーである「専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目」に当たる。

### 双方授業の実施及びICTの活用に関する記述

なし

### 実務経験の有無及び活用

なし

### 備考

その他授業運営方法等の急な変更がある場合には、キャンパスクロスの講義連絡を通じて案内を出しますので、日ごろから連絡事項に注意をしておくこと。